

令和4年度 第2回徳島県自殺対策連絡協議会 議事概要

○日 時 令和4年8月18日(木)
午後1時30分から午後2時30分まで

○形 態 オンラインによるWeb会議

○出席者 徳島県自殺対策連絡協議会委員 13名
沼田会長, 菊池副会長, 櫻木委員
岡本委員, 斎藤恵委員(松村代理), 綿貫委員
廣田委員, 伊坂委員(岡田代理)
郡委員, 石元委員, 大久保委員
榊委員(久保代理), 勝瑞委員(谷崎代理)
事 務 局(徳島県保健福祉部保健福祉政策課)

○会議概要

1 開会

2 あいさつ

(保健福祉政策課 福良課長)

(協議会会長 徳島大学大学院 沼田教授)

3 会議次第

(1)自殺者数の現状について

(2)自殺予防週間を含む8月・9月の取組及び令和4年度自殺予防対策事業について

(3)徳島県自殺対策基本計画の改定について

4 発言要旨(議事概要)

議事(1)自殺者数の現状について

議事(2)自殺予防週間を含む8月・9月の取組及び

令和4年度自殺予防対策事業について

委員 どの事業でも取り上げられているんですけど、やはり普及・啓発っていうことがものすごく大事になってくると思います。それも単発の一過性のものと言うよりは、ある程度持続して効果を示すというようなものが、いいんじゃないかと思うんですけど。さっきの資料2の方で、えっと教育委員会さんだったかな？

資料2の8ページのところに教育委員会の方で教員を対象としたゲートキーパー養成研修というのをやられるというふうに書いておられるんですけども、具体的にはどういうことをやられるのか教えていただけますか？

委員 教育委員会です。ゲートキーパー養成研修の開催のことについてなんですけれども、日々子供と接し、またゲートキーパーとして、大きな役割と責任がある教職員に対して、困難やストレスに直面した児童生徒が、一人で抱え込むことのないよう信頼できる大人に助けの声を上げるために、SOSの出し方に関する教育やメンタルヘルスの指導が重要ととらえています。

さらに自尊感情を高め、自他の生命とか人権を尊重する児童・生徒のあり方等について、研修を通して適切な対応力・指導力の向上を図るという目的のもとに、ゲートキーパーの養成講座研修を行っております。

本年度については5月、6月において各校種ごとの生徒指導主任・生徒指導主事会の中で、ゲートキーパー研修を実施しております。

委員 国の方でも「心のサポーター」を養成するというふうな計画を立ててやっております。例えば精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築であるとか、あるいはその地域で安心して暮らしていることを実現するための精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会でも普及・啓発に関してゲートキーパーのことが取り上げられてます。

多くの委員はご存知だと思いますけれど、「心のサポーター」の養成ということで、「※メンタルヘルスファーストエイド」の技法を使ってということが、国の方では取り上げられていいです。この機会にそういったゲートキーパーの養成に関しては国が進めているこういった動きと連動するような形で行っていったらと思うんですけど、いかがでしょうか。これは提案です。

事務局 ご提案ありがとうございます。ぜひ今後の参考にさせていただきます。

委員 はい、よろしくお願いします。普及・啓発っていうのが、ポスターの展示などの一過性なものになることがあるので。持続的に効果を発揮をして行くという方法がやはり必要だと思います。

委員 精神保健福祉センターです。ゲートキーパーというお話が出ましたし、普及・啓発ということで、委員から御提案がありましたので、関連する話をいたします。

精神保健福祉センターではゲートキーパー養成研修をオンラインで収録したものを公開しております。とくしま自殺予防センターのホームページにアクセスしていただければ、どなたでも視聴できます。動画には、ゲートキーパーの説明や鬱病、アルコール依存症等の説明、そして傾聴の仕方などを説明しておるんですけど、いつでもオンラインで見えていただけるようになっておりますので、ぜひ委員の皆さま方も各所で周知していただいて、ご視聴頂き、ご活用いただければと思います。

議事(3)徳島県自殺対策基本計画の改定について

委員 精神科病院協会です。徳島県の自殺対策基本計画の改定ということで、資料の3に示されています「地域共生社会の実現」に向けた取り組みということで、これは先ほどお話をした精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築と関連が深い内容になります。

地域包括ケアシステムの考え方によれば、地域で精神障がい者のみならずメンタルヘルス上の問題を抱えた人たちをはじめとする一般住民が対象になっていきます。例えば相談支援事業でも窓口の一元化を市町村がやることになってきます。

自殺対策基本計画もその流れと連動するような形で進めていただければと考えております。よろしくお願いします。

委員 徳島県自殺予防協会です。資料3の中に大綱見直しのポイント①、②、③とありまして、3番目の「自殺報道等への対応」とポイントが書かれておりますが、私たち自殺予防電話で相談を受けておりますものですから、少し感じていることを伝えさせていたいただこうと思います。

コロナが広がり始めた当初の時に、芸能人で志村けんさんや岡江久美子さんがお亡くなりになった時は国民の皆さんも、大きな不安を覚えたと思うんです。

いのちの希望にかかってくる電話の中でも、孤独な人とか、あるいは心の病を抱えている方など、特にいつも不安を抱えているような方はショックを受けていました。コロナのことがまだあまりよくわからない時期に、有名な方がお亡くなりになったことで、すごく心が揺らいでいるというようなことを電話の中で実感したこ

委 員

とを思い出しました。

有名人が自殺でお亡くなりになった場合はなおさらです。ここ数年では三浦春馬さん、それから竹内結子さん。つい最近では上島竜兵さん。渡辺裕之さんなど、本当に著名な人がお亡くなりになられたという報道がありますけれども、自殺報道ということで影響を受ける人が多いんだなあっていうことは強く感じます。

そんなことを思うときに、もうずいぶん前になります。私も若かった時だと思いますが、もう30数年前ぐらいでしょうか。アイドル歌手の岡田有希子さんという方がビルの上から飛び降りて自殺をして、その報道が本当にセンセーショナルに、そして繰り返し流れるということがありました。

週刊誌には、その現場の遺体の状況なども写真に写すような、そんな報道がされて。そしてその報道を受けて岡田さんと同じくらいの若い方が連続して同じような方法で自殺をしたというような本当にショッキングなことがありました。

最近ではそういう点で、メディアの報道についてはいろいろ配慮をしておられるんだと思います。実際に自殺の報道がされたあとには、相談窓口の紹介やいのちの電話の番号を書いてあるとかいうようなことをして、ずいぶん慎重になっております。

メディアの方も自殺の手段や場所、色々な内情っていうものは、あまり報道しないように努めていらっしゃるようですけれども、やはりこの自殺の報道に関しては影響を受ける人たち、特に心が弱っていらっしゃる方や誰も相談する人がいないような方は自分と重ね合わせるんでしょうか。

このような「生きづらさ」がある人に対しては、やはり報道の影響が大きいので、徳島県においては新聞報道であるとか、あるいはNHKや四国放送というテレビ放送において慎重に配慮をお願いしていくことになると思っております。

さらに私は危惧しているのは、公共的な報道機関だけではなくて、ネットを見ましたら、本当に配慮もなくと言いますか。もう次から次へあれやこれやと刺激적인情報が流れています。それを見ることによって影響を受ける人が多いなっていうようなことを感じておりますので、ネットを通じて、それから報道機関においても、自殺報道への対応ということについては慎重であってほしいと考えています。

徳島県としてもこういうようなことを盛り込んでいくとしたら、ちょっとどのような対応をしていこうかなと。そういう一つの方向性みたいなものがあれば、お教えいただきたいなと思ひまして発言しました。

事務局

本協議会につきましては、マスコミ関係者がいらっしゃいますし、計画を改定するにあたりましては、広く報道関係者からの意見もいただきながら、ネットの関係もお話がありましたので、方向性も含めて改定作業を進めて参りたいと思います。

この件は委員の皆様へ相談させていただきながら進めたいと考えております。

会 長 数年ぶりに県の自殺対策基本計画の改定が行われるということですが、
「地域共生社会」や「自殺報道」について各委員から貴重なご意見をいただきました。

県にはぜひともこのような意見も反映させて、よい改定案を作っていただきたいと思います。

委 員 報道っていうお話も出たんですけども、精神保健福祉センターでの相談もやはり
報道があると増えてくることがあります。

それと最近増えてきたのが、アルコール依存症の相談が増えてきておりまして、
コロナ前から比べると約1.5倍となってきました。

それとギャンブル依存症がございまして、それも去年から比べたら2倍以上
に増えてきています。パチンコがギャンブルでは一番多い相談なんですけれども、
コロナで減ってはいます。なかなか外に出て行きにくいということで減っている
んですけど、それと比較して増えているのが、ネットでできるオンラインカジノで
す。

どこかの町で給付金を間違って振り込んで、ネットカジノで使っちゃった
という事件があり、オンラインカジノの存在が有名になりましたが、依存症の相談
でも増えています。他にも競馬や競輪、FX取引も最近ネットでできるようでして、
依存症の相談が前年度から比べると最近増えてきている傾向にあります。

コロナの影響で自殺の相談も増加傾向にあるんですけど、少し遅れて依存症の
相談、アルコールやギャンブルの相談が増えてきていることがデータから見て取れ
ましたので、少しこの機会にご報告させていただきました。

会 長 直接的な自殺との関連があるかどうか分かりませんが、依存症の方は
県の方で対策をとられているという理解でよろしかったでしょうか。

委 員 依存症は自殺との関連性が高いので、依存症対策も次期計画に反映して
いただきたい。

委 員 依存症対策につきましては、精神保健福祉センターを中心に相談支援を実施し
ていただいております。

また保健所でも各種支援を実施しているところでございます。依存症の方やそ
の家族のとの間で、顔の見える信頼関係を構築してきめ細かい取り組みを進めて
参りたいと考えております。

委 員	資料2に保健福祉政策課が「自殺予防講演会」を8月29日にオンライン・ハイブリッドで開催するとあり、「ひきこもり理解と支援」の内容で行うと書かれてあるのですが、この内容についてちょっとご紹介をしていただけるのでしょうか？
事務局	香川県でひきこもり支援に精力的に取り組まれ、ご活躍の宮武先生をお招きして、アスティとくしまで行います。宮武先生は御自身がかつてひきこもりの当事者としての経験があり、また支援者として家族支援や相談支援に取り組まれておいでます。そうした宮武先生ならではの話がうかがえるものと思います。
委 員	宣伝になるのですが、私たちの自殺予防協会も9月25日に講演会を予定しております。ハイブリッド式にするのですが、今回は静岡県で精神科クリニックを開いておられる夏苺郁子さんという先生をお招きをします。 オンラインの形になるんですが、会場で大きな画面で見えていただけるし、自宅等でZoomでも見ていただける、そういう研修会といたします。 かつて先生御自身が「生きづらさ」を抱えておいでたのですが、いろいろな人の出会いを通して回復をして、今では多くの方を支えておられるというような素敵な講師の方です。 まだチラシが配られておりませんが、皆さんのところにも案内が行くかと思しますので、ご参加いただけたら、大変うれしいと思っております。 我々はホームページを作成する力が乏しいので、この情報をまだホームページには入れられていませんが、ご希望の団体には、いのちの希望事務局にご連絡いただければ、チラシなどを送らせていただきます。
委 員	ひきこもりの話が出たので補足です。精神保健福祉センターではひきこもりの方への支援として「居場所づくり」に力を入れています。 当事者と話をすると、コロナになって「ホッとした」という方もいれば、外とのつながりがなくなり家に引き戻される方もいます。精神保健福祉センターはコロナでも開いていますし、当事者のグループ活動をやっているのですが、コロナ前よりも参加者は増えています。コロナ禍でひきこもりの方にとって、安心できる居場所は少なくなっているのに、「居場所づくり」はこれからも重要だなと思っています。

5 閉会のあいさつ(保健福祉政策課長)

※メンタルヘルスファーストエイド(Mental Health First Aid)とは、地域の中でメンタルヘルスの問題を抱える方に対し、住民による支援や専門家への相談につなげる取組のこと(厚生労働省のホームページより)